

妊婦HIV検査(一次検査)で 結果が陽性だった方へ

一次検査の陽性は「感染している」という意味ではありません。

Q 「陽性」というのはどういう意味？

一次検査の陽性は「HIV感染」を意味しているのではなく、「感染している可能性が完全には否定できない」という程度に理解してください。ほとんどの方は、このあとの二次検査でHIVに感染していないことが判明します。しかし、陽性の方の中には、ごくわずかですがHIVに感染している方も含まれています。

Q 一次検査「陽性」のうち、 実際に感染しているのは何人ぐらい？

これまでの一次検査の結果を集計すると、1万人に31人の割合で「陽性」と出ます。しかし統計によると日本国内の妊婦さんのHIV感染は多く見積もっても1万人に1人なので「陽性」の31人のうち30人は「偽陽性」(実際には感染していない)ということになります。

Q なぜ、感染していないのに「陽性」と出るの？

理由ははっきりとはわかっていません。しかしHIV検査に限らず、ウイルスや細菌に感染しているかどうかを調べる検査は100%正確というわけにはいかないのです。

1/10,000 というごくわずかな感染を見逃がさないためには、どうしても一定の「偽陽性」が生じることをご理解ください。なお、現在、「偽陽性」が少なくなるような方法を検討中です。

一次検査1万人中

一次検査陽性31人

感染者1人
(二次検査で判明)

Q 感染している可能性がほとんどないのなら、 わざわざ二次検査を受けなくても いいのでは？

可能性はほとんどゼロであっても、絶対に感染していないとは言いきれません。必ず二次検査を受けて、感染しているかいないかをはっきりさせてください。これはあなたのためだけではなく、お腹の赤ちゃんのためにも必要なことなのです。

感染していた場合に

感染に
気づかないでいると

妊娠初期に
感染がわかると

..... 赤ちゃんの約30%に感染する

..... お母さんの治療も遅れる

..... 赤ちゃんの感染をほぼ阻止できる

..... お母さんも適切な治療が受けられる

このような理由から、必ず確認検査(二次検査)を受けてください

確認検査（二次検査）の受け方

- 確認検査（二次検査）では、一次検査で陽性だった方を対象に、HIVに感染しているかどうかを判定する精密検査を行います。
- 確認検査を実施していないクリニックや病院もありますので、その場合は一次検査を担当した医師が確認検査のできる医療機関をご紹介します。
- 二次検査の結果がわかるまでには1～2週間かかります。
- 二次検査の結果はご本人に直接お伝えします。



もし感染していたら

- 感染がわかったら、すぐに治療を開始します。治療法はめざましい進歩をとげました。現在では、きちんとした治療を受けていればエイズ発症を予防することができます。もう「HIV感染=死に至る病」ではありません。
- もちろん出産もできます。出産は分娩時の赤ちゃんへの感染を防ぐため、帝王切開が推奨されています。
- 日常生活の中で、周りの人に感染することはありません。血液や体液の取り扱いに注意していただくほかは、今までと変わりなく生活することができます。
- お母さんは妊娠中から、赤ちゃんは生後6週間、抗ウイルス薬を服用します。
- 母乳からの感染を防ぐため、人工栄養（粉ミルク）を用います。

帝王切開分娩

感染しなかった

219人 (99.55%)

感染した

1 人 (0.45%)



経膣分娩

感染しなかった

23人 (79.31%)

感染した

6人 (20.69%)



平成20年度厚生労働省研究班報告による



安心の
サポート
体制

HIV感染者の社会生活全般を支援するために、医療・福祉・保健分野でさまざまなサービスが用意されています。たとえば、福祉制度を利用すれば、医療費の負担を軽減することができます。申請方法など詳しいことは、市区町村の担当窓口や病院のソーシャルワーカーなどが相談にのってくれます。カウンセラーを派遣してくれる自治体もあります。

このほかにも、ボランティア団体・感染者の交流会などが、
悩みごとの相談や情報交換の場を提供しています。

HIVについてのご相談は

・エイズ予防財団電話相談：0120-177-812(フリーダイヤル)

HIVについて知りたいときには

- ・エイズ予防情報ネット(API-Net) : <http://api-net.jfap.or.jp/>
- ・HIV検査・相談マップ : <http://www.hivkensa.com>

★この文書はインターネットからもダウンロードできます。
エイズ予防情報ネット (API-Net) ⇒ 資料室 ⇒ HIV母子感
染予防対策マニュアル ⇒ 「妊婦HIV検査 (一次検査) で結果
が陽性だった方へ」

編輯／發行

平成21年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「HIV感染妊婦とその出生児の調査・解析および診療・支援体制の整備に関する総合的研究」班（研究代表者：仙台医療センター副院長・和田裕一）分担研究「わが国独自のHIV母子感染予防対策マニュアルの作成・改訂に関わる研究」班（研究分担者：塚原優己）

〈問い合わせ先〉

〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1
国立成育医療センター・周産期診療部産科 塚原優己